

# 第13回日本語スピーチコンテスト

昨年11月13日、こども未来館ここにこ2階の会場で、第13回日本語スピーチコンテストを開催しました。26名の参加者の中から、豊橋市国際交流協会会長賞を受賞した2名のスピーチを紹介します。

## 【小中学生の部】

### 「日本語が上手になりました」

豊橋市立羽根井小学校4年 鈴木 雅美  
(国籍:中国/2010年3月来日)

「やったあ。漢字・計算コンクール2つとも満点だ、イエーイ。ヨッシャー。」

日本へ来て、一年半が過ぎました。中国にいる時に、お母さんに、「日本語をべんきょうしなさい。」と何度もいわれました。私は、「めんどくさいなあ。やりたくないなあ。」と言って、全然やってませんでした。それで、日本へ来て、日本語が全然わからないので、「やだなあ。あのとき、勉強しておけば…」と後悔してしまいました。学校では、「おはよう」「こんにちは」など、あいさつしかできないので、友達もできないし、とてもはずかしかったです。

それで、パソコンのアニメを何度も見たり、国際(学級)でも、たくさん勉強を教えてくださいました。そして、友だちもやさしく話しかけてくれたので、ことばがたくさんわかるよ

うになりました。三年生のときは、日本語があまり書けませんでした。みんながテストをしている時に、先生がたくさん「ひらがなノート」を書くように言ってくれて、家でもすごく練習して、漢字もたくさん練習しました。

それで、今では三年生の時に読めなかった文章も国語の教科書もすらすらに読めるようになりました。そして、算数の計算に加えて、文章問題も百点、漢字も百点がとれるようになりました。先生やお母さんも、「よくがんばったね。百点がとれるようになってよかったね。」と言ってくれました。言ってくれたときは、とてもうれしかったです。がんばってよかったと思いました。

私は、本が好きで、とくにまんがが好きです。でも自分ももっとたくさん文章が読めるようになりたいから、小説が読めるようになりたいです。もちろん中国語もわすれません。



## 【高校生以上一般の部】

### 「私のいいとこ取り」

愛知県立豊橋西高等学校3年 村田 ジョイス  
(国籍:ペルー/2006年4月来日)

私は日本で生まれました。20年ほど前、両親は社会の不安定なペルーを出て、日本で働くことを決意しました。家族4人とも日本語が分からないまま日本に来て、姉は小学校へ、兄は幼稚園に入りました。その数年後、私が生まれました。いつしか姉と兄は、ある程度のスペイン語なら聞き取れても、返事は日本語で返すようになっていました。私は、最初から日本語しかわかりませんでした。両親は日本語があまりできません。そうして、家族内で言語の壁が生じました。やがて、思春期になった姉は両親と、うまく通



じ合うことができなくなりました。まだ幼稚園児だった私でも、それが大変だということが少なからず解りました。そこで、母は私たち3人の子どもをペルーに連れて行くことにしました。父は仕事のため、日本に残りました。ペルーで親戚に会った時、

彼らに抱きしめられ、キスされて、びっくりしました。そして、これが私の親戚なのだ実感しました。日本で生まれた私にとって、それは初めての異文化体験で、ある意味の衝撃でした。今思い出しても、嬉しくて、楽しくて、温かい気持ちになれます。

ペルーでの6年間で、私はスペイン語が話せるようになり、また書けるようにもなりました。その代わり日本語を忘れました。ところが、母はまた家族5人で一緒に暮らすため、父のいる日本に戻ったのです。私は中学1年生でしたが、日本語を忘れていたため、友達もできませんでした。しかし、素晴らしい先生方と出会い、とても親切に指導してもらえたおかげで、日本語がまた話せるようになり、漢字も少しずつ書けるようになりました。それで、友達とも打ち解けていけました。

ペルーと日本の間を行ったり来たりで言葉が曖昧になり、どちらの国にいてもコミュニケーションをうまく取れない時期が必ずありました。勉強にもついて行けませんでした。それでも今では、両親がこうしてくれたことに感謝しています。私は二つの文化を体験できたのです。もし日本の中だけで生きていたら、日本を外から見ることができなかったでしょう。

ペルーでは、人の細かいところは気にしません。だから

ゆたかな地域社会  
づくりに奉仕する

地元とともに——  
 蒲郡信用金庫

会長 吉川敏夫  
理事長 竹田知史

蒲郡市元町5番8号

☎ <0533> 69-5311 (代)  
<http://www.gamashin.co.jp/>

おかげさまで 創立90周年



おたくも うちも  
豊橋信用金庫

豊橋市小畷町579番地 ☎(0532)52-0321 (代)  
<http://www.toyo-shin.co.jp>

仲間思いで、男女関係なくフレンドリーです。また、自分の意見を言うのが恥ずかしくないのが、若い頃から自由な自分なりの考えを持つことができます。しかし、やはり楽しいのが好きで、自由すぎて周りを気にしないため、けじめが付きません。だから、ちゃんとしたモラルやマナーが身に付かず、社会が今も不安定なままです。

一方、日本では、人の細かいところを見て、逆に人からそういう風に見られ、言われるのを恐れている人が多いと思います。それは子どもっぽく見えます。アイデンティティを作り上げるのが遅いのです。しかし、日本人はこういう文化のため、マナーをきちんと守り、控えめにしていることで、謙虚に見えます。また、人に迷惑を掛けないようにと思う真面目さが、今の進歩した社会につながったのだと

思います。

こういうことが解った私は、二つの国のいいところ取りができます。それはペルーのフレンドリーで温かい部分と、日本の真面目でマナーを守る部分です。この体験のおかげで、人間的にも成長できたのだと思います。また、両親が日本語をよく分からないお陰で、私は早く大人になれました。親に代わって大人の世界の交渉をして行くうちに、社会に出るための自信が付きました。

こうして、日本とペルーの長所も短所も自分で見て考えているからこそ、その良いところが引き出せます。これからも、私なりに二つの国のいいところ取りを続けて行こうと思っています。

## 第13回日本語スピーチコンテスト 其他受賞者

	<小中学生の部>	<高校生以上一般の部>
豊橋市教育委員会賞	横割 ナオミ(ペルー) 「真っ白な人生と後悔した気持ち」	黒野 友美(中国) 「心配しなくていいから」
特 別 賞	カルネバリ ユカリ(ブラジル) 「私の人生」	ナガミニ レイカ(ブラジル) 「将来の夢」

協 賛：豊橋みなとライオンズクラブ

# 平成23年度 中学生海外派遣

世界を体験!



## 中学生海外派遣の記録

- 【日 程】平成23年10月28日(金)～11月3日(木)
- 【訪問国】アメリカ合衆国 トリード市ほか
- 【参加者】中学生23名、引率5名
- 【内 容】バンデル初等学校、日本語補習校での交流活動、ホームステイ、トリード市長及びトリード国際姉妹都市協会表敬、施設見学

豊橋市国際交流協会では、次代の担い手となる中学生を海外に派遣し、教育活動への参加や生徒間の交流、ホームステイをとおして、国際的視野と豊かな心で未来を開き、国際社会に貢献できる国際人の育成を推進しています。

今年度は、中学生23名を姉妹都市アメリカ合衆国トリード市へ派遣し、同世代との活発な交流を行いました。



トリード市長マイク・ベル氏表敬

## ハートにキュン！ 親・近・感！



# 豊橋商工信用組合

理事長 兵藤 俊朗

豊橋市駅前大通三丁目55番地 TEL (0532) 53-2828